

是はさつま芋、ながいも、自然薯にてつくる。

わらび漬のこしらへかた

蕨のやはらかさを、穂先の方ばかり、土つきたる軸の方を去りて、よろしき方を、鹽と灰をまぜたるを桶に入れて、其中につけおくべし。

さてつかふ四五日前に取出して、水に浸しおき、

四日後につかふ時、よく灰を洗ひ去りて、あつき湯をそゝぎかけて、つぎに椀もりなどに用ふべし。

わらびめしたきやう

わらびの莖わかき時、とりて細かにさざみ、灰湯につけて、よく煮て、後に水にとりて三日ばかりひたしおき、ゆりてさよく洗ひて、ぬめりを去り麥飯の中などに合せて、たくべし。

黄蘗豆腐の拵へやう

豆腐かためにつくりたるを、上下より板をあて

いおしをして、水を去り、かたくなるを、玉子焼なべにて、醬油のつけやきにして、小口切にして出すべし。

袖無羽織

岡本 ちか

三四歳位までの子供の羽織は、普通袖無となす、これ袖のあるものよりは軽く便利にて、且つ、割合に暖く、又切れも經濟になりて、子供の服には最も適すればなり、今爰に木綿幅にて表五尺一寸裏三尺のきれをもちて、二三歳の子供に適するものにつき其裁方、縫方のあらましを記す

一、裁切寸法

- 一、後丈一尺六寸
- 一、前丈一尺七寸
- 一、衿丈一尺八寸
- 一、衿幅二寸七分

表裁方

身 前		後	衿
			同
身 前		身	襠 同

一、裁方

- 一、襠幅二寸
- 一、紐丈五寸五分

裏裁方

身 前		後	衿
			同
身 前		身	襠 同

- 一、衿肩一寸二分
- 一、裏身丈一尺五寸ツツ

(注意) 切れ少き時は、前  
身頃の裁落しを襠となし、  
衿は別切にするもよし

一、仕立上寸法

- 一、後丈 一尺五寸
- 一、脇明 六寸五分
- 一、前幅 イツバイ
- 一、紐付 肩ヨリ五寸
- 一、縫標付け方
- 一、身頃 表裏を別々に表を中に縦に二つに折りて、表の上に裏を載せ、後身は出来上りの身丈より三分長く前身は後身より五分長くして表を裏の方に折返して胸はぎの標をなす、(第一圖参照)
- 一、後下り 三分
- 一、後幅 イツバイ
- 一、襠幅 上一寸
- 一、衿幅 一寸一分

次に肩の所に尺を入れ後身を前身の上に肩より折りて、山標、脇明、身幅などの標をなす、(身幅は前後共にイツバイなれば同じ所に八枚一時につけてよし) 次に前下りを脇の方は後身頃よ

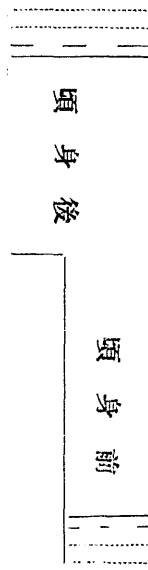
り二分下りたる所に幅標と交はる様に横に標を

なし、衿付の方はイッパイにして斜に標をなす

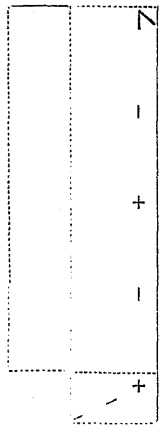
(以上第一圖参照)

次に後身頃を明け前身頃の紐のつく所に標をなす

第一圖



第二圖



一、襟、脇明の標より後身の端の所までは襟の丈なれば其丈に上の縫代凡そ五分を加へたるだ

けに表裏の胸はぎをなし(尤も裏の付かぬものは直ちに丈の標をなしてよし)次に襟の下の幅を前後同じ縫代にして幅をきめ次に上の方は後にて一分五厘上げて標をなし其標より上の幅だけに前の方に標をつけ上と下との間に尺を當て、標をなすこと圖の如し



一、衿 山はぎをなして身頃につく方に心を綴ぢつけ衿幅の二倍に縫代三分を加へたるだけに幅を折り次に身頃につく方を三分の縫代に折り次に衿幅を二つに折りて合標をなす

(注意) 表の地質かたきものなるときは衿心の幅は縫代だけ狭くなし置く方よろし

一、縫方

先づ身頃の胸はぎをなし裏の方に折を返して縫  
 袷をかけ次に前下りを縫ひ（前下り表は標の所  
 裏は標より一分下を縫ふなり）裏の方に折を返  
 しかくし袷をなす次に後身に後褶、前身に前褶  
 を入れ身の方に折を返し次に綿を入れるなり綿  
 は脇明の處と裾口の所とは少し厚く入るべし  
 綿を入れたらば第一に裾を假とぢなし次に脇明  
 の所表の方に綿をふくみて大針にとぢ裏の方を  
 二分程去りてこまかく紵けるなり次に衿付をと  
 ぢて紐をつけ次に衿を裏身頃より衿の方を見て  
 紐付より上は衿の方をやゝゆるめに紐付より下  
 は同様にして一針ぬきにつけ次に衿先を縫ひ裏  
 身頃の方に返して身頃にとぢつけ次に合標を合  
 せて少さく紵け後に衿を表の方に返して袷をか  
 け置くなり

或母の日記 (第五回)

無名氏

明治三十三年九月三十日生れの女子生後十二ヶ月間の記事  
 明治三十四年七月十五日。父が家に歸り來るを凡  
 そ壹町先きに於て見付けたり。

七月十七日。某校の創立紀念式に風船を上げたる  
 を見物に連れ行きたり。

七月三十日。明日より父は講習のため他行につき  
 母は此子をつれ母の實家に連れ行く、茲に滞在す  
 る事、四週間にして歸宅す。

八月中心より、折々飯を少しつゝ與へたり、此下旬  
 より梨子の熟したるものを皮を剥きて與ふ。尤も  
 好む所なり、菓子甘さものは左程に好まぬ  
 方なり。

九月上旬。例の如く梨子を興へたるに、母の手